

## 経済発展と環境破壊

田中宏果・藤田茜・山下蒼空

世界には多く国があり、先進国、発展途上国など国の状況は様々です。その様々な状況が格差を生み、環境問題をはじめ紛争、貧困などの問題を深刻化させています。その中でも環境問題は深刻な問題とされています。自然は壊してしまえば元には戻らずお金で買うことが出来ないからです。私達は経済発展が環境問題を解決すると考えます。なぜなら環境問題が深刻化している多くの地域が貧困地帯、経済が安定していない国だからです。貧困地帯では生活をするために学校に行かず働く人が多くいます。また農家が多いのが特徴です。教育を受けられずどの化学物質がどんな悪影響を与えるのか知らず環境に悪い薬品を使用し続けたり、品種改良や肥料などの技術が発展してないため品質の良いものを多く作れずいつまでも安定した収入を得ることが出来ていません。また自国では使用禁止の薬品を先進国がアフリカなどの後進国に輸出することで野生動物にも被害が及んでいます。知識や技術があれば環境に負荷をかけずに出来るのにそれらが欠けているため環境も貧困も深刻化していくばかりです。たとえ技術があっても環境に優しい技術へ投資する資本もないため環境に問題のある技術に頼らなくてははいけません。余計に問題は深刻化してしまいます。

だからこそ私たちが未来の地球のために出来ることは自国のことを世界に発信していく事だと思います。最初は文化や習慣、自国ではやっている音楽やファッション、どんな些細な事でも発信し交流する機会を作れば、次第に自国の医療や科学、環境技術なども共有出来るようになるでしょう。そうすれば今まで自国では解決出来なかった問題もその技術を生かして解決できると思います。もし相手の国が発展途上国なら先進国になるための道を切り拓くきっかけになるでしょう。技術だけでなく経験でもいいと思います。例えば地震大国と呼ばれる日本では地震に対してどのような対策をとっているのか、また東日本大震災からなぜ津波の被害を想定して一部の人は避難したのに、多くの方が避難行動で出来なかったのか、原発事故をふせげなかったのかといったメッセージを実際に災害を経験した日本が発信すればまた他国で地震が起きた時、少しでも被害を食い止められるかもしれません。

しかし経済発展も環境に優しい発展の仕方ではなくては意味がありません。技術を開発するといっても環境に悪影響な技術も技術です。品質の良い野菜や穀物をより多くより安く栽培出来る品種改良などの科学技術、白血病や癌など今までは難病とされてきた病気を治す医療技術を生み出した現代。そのような技術を生み出すことが出来たらきっと環境に優しい技術を開発することも出来ると思います。また環境問題が注目されている中、環境保全をビジネスにも活用出来ると思います。

具体的な例として、貧困地帯では綿工業が一番発達しやすいと言われています。理由は綿工業が高度な機械より人手を重要とするからです。多くの人手が必要になれば働き手が増えることですから仕事をもてる人が増え貧困も改善されます。また綿を栽培することは植物を植えることなので今まで荒れ放題だった土地にも緑が生まれ環境も良くなることでしょう。先進国が発達途上国を救うのが国際協力ではありません。これからは世界が一体化して協力していかなくてはなりません。発達途上国は今どのような状況なのか、どんな技術を必要としているのか発信し、先進国はそのメッセージをきちんと受け取り、必要としている技術を研究し開発しそれを発信していこう、そんな意識をみんなが持って欲しいと思います。

では私たちは日本人として日本のことを今この場で発信します。これから先、経済発展を遂げようとしている国がたくさん出てくるでしょう。けれども経済を発展させることだけを優先して考えてはいけません。それはなぜなのか説明していきたいと思います。みなさんは「四大公害病」という言葉を聞いたことがありますか。これは日本が経済を発展させようとした際に発生した代表的な公害病のことです。「四大公害病」とは、水俣病、第二水俣病、四日市ぜんそく、イタイイタイ病のことを指します。しかしどれもまだ解決はされていません。では今から「四大公害病」について説明したいと思います。

まずは水俣病です。その名の通り日本の九州地方に位置する熊本県水俣市で起きた公害病でそれから9年後にも中越地方に位置する新潟県阿賀野川で発生しました。原因となったのはメチル水銀という化学物質です。普段耳にする機会は少ない言葉ですが体温計、血圧計、蛍光灯などに使用されています。メチル水銀により汚染された魚介類を長期間摂取することで引き起こされその病状は感覚障害をはじめ言語や神経障害など様々でした。

次はイタイイタイ病です。富山県の神通川下流域で発生し日本で初めて公害病と認定されました。骨がもろくなりそのうち歩くことも立つことも、増しては話すことさえできなくなってしまう公害病です。その激しい痛みを「イタイ、イタイ」という叫びにしか表せず最後まで苦しみ死に至るためこのような名前が付けられました。長期間排出されたカドミウムにより土壌や水が汚染され、作物や魚を通して人間に害を与えました。

最後は四日市ぜんそくです。第二次世界大戦後の日本が経済を立て直そうとして三重県の四日市で起こったもので唯一大気汚染を原因とした公害です。この原因は石油化学コンビナートの稼働により排出された亜硫酸ガス、窒素酸化物などの汚染物質でした。またコンビナートから出る廃水を海や川に流してしまい事態をより悪化させました。ぜんそくなどの呼吸器系疾患や心臓発作や肺がんを併発する可能性があり苦しさに耐えられず自殺する人も少なくありませんでした。

現在は昔に比べると公害は少なくなってきましたが多くの方が亡くなってしまったという事実は変わりありません。しかし今日本が先進国という位置に居るのは高度成長期、環境を考えず経済を最優先していた時代のおかげです。経済は私達が生活していく中でなくてはならない大切なものです。だからこそ環境を守りつつ経済も発展させていかなくてはならない、それが日本からのメッセージです。

経済が発展すると私達は「豊かさ」を手に入れます。しかし経済格差が広がった今私達は「豊かさ」の意味を忘れてしまっていないでしょうか。人それぞれ「豊かさ」に対する価値観は違います。美味しいものが食べられる、学校に行って勉強出来る、毎日楽しく過ごせる、1人1人が思う「豊かさ」は違ってもそれがその人にとっての「豊かさ」には変わりありません。ですがその「豊かさ」を手に入れる事が出来る人、出来ない人がいてはいけないと思います。「豊かさ」を誰もが手に入れることが出来き、どの国の経済も安定している世界を作るのは容易ではありません。だからこそこれから先私達はこれらの問題と真剣に向き合っていかななくてはなりません。

最後になぜ世界が190以上の国に分かれて成り立っていると思いますか。それは互いの立場や状況に立って物事を考えたり問題を解決したりするためだと考えます。ですが今の世界はどうでしょうか。国と国の違いを紛争や戦争につなげてはいないでしょうか。環境問題だけではなく他の世界問題を解決していくためにはもう一度“世界”という在り方を一人一人が考えるべきではないでしょうか。ご清聴ありがとうございました。